

2021年
海外トピックス
韓国

韓国駐在員報告

駐在員：小関 克也

社会・時事

世界初！ 国内の全路線バスに無料 Wi-Fi 設置

韓国科学技術情報通信省は 12 月 14 日、乗客がインターネットに無料接続できる「Wi-Fi（ワイファイ）」を国内の路線バス全車両に導入したことを発表した。同省によれば、路線バスの全車両に Wi-Fi を搭載するのは世界で初めてのことである。

取組は 2018 年から韓国政府と 16 の地方自治体の協力により開始され、韓国全土で路線バスに供されている車両 3 万 5,006 台のうち、政府が 2 万 9,100 台、自治体が 5,906 台にそれぞれ設置した。

日本も同様であると思うが、韓国でも電車やバスで新聞・本を読んでいる人を見かけることは少なくなり、移動時間をつぶす手段はスマホに置き換わっている。前出の科学技術情報省によると、19 年 5 月から今年 10 月までの約 1 年半の間に路線バスにおいて無料 Wi-Fi が利用された総回数は 4 億 2,000 万回で、韓国国民 1 人当たりになると平均 8 回利用したことになる。データ使用量は計 1 万 6,000 テラバイトで、HD 画質の映画 1,400 万本分にも相当するとのこと。

全バスへの Wi-Fi 設置は、ゲームやドラマを乗車中に楽しむ現地の韓国人だけでなく、観光客にとっても朗報だ。初めての観光客にはちょっと利用のハードルが高いバスであるが、新型コロナ収束後、観光客が復活した際には、Wi-Fi 利用をきっかけとして、バス・地下鉄を乗りこなす人が増えることを期待したい。

経済

忠清南道で水産物の輸出が好調！

静岡県と友好関係にある韓国忠清南道（チュンチョンナムド）の年間水産食品輸出額が初めて 1 億ドルを突破することが確実視されている。

12 月 15 日の道の発表によると、10 月末現在の水産食品輸出額は 9,315 万ドルで、9 月末の 8,284 万ドルより 1,000 万ドル以上増加、年間輸出総額 1 億ドル突破に王手をかけた。輸出相手国は中国が最も多く 2,821 万ドル、ついで米国が 2,261 万ドル、台湾 500 万ドルなどとなっている。また、最も好調な輸出品は「味付け海苔」で、10 月末現在、昨年同期比で 4 倍以上の 7,762 ドルが輸出されており、輸出総額の実に 80%以上を占めている。

道は水産食品輸出額が急増した背景として、新型コロナ禍で手軽に購買・消費できる食品需要が増加したためと分析した。特に味付け海苔は賞味期限が長いことに加え、重さも軽く配送が便利なのも好まれている要因のようだ。

ヤン・スンジョ道知事は「新型コロナの影響で全国では水産食品輸出額が 15%ほど減少したが、忠清南道は唯一増加した」とし「水産食品を未来成長・高付加価値を備えた産業として育成し、2030 年には 3 億ドル輸出を達成する」と述べた。

韓国駐在員報告

駐在員：小関 克也

社会・時事

憩いの場が閉鎖されて

韓国でも日本と同様、12月から新型コロナの新規感染者が急増した。韓国政府は1段階から0.5刻みで3段階までの計5段階で警戒レベルを定めているが、新規感染者が増加した首都圏等では、昨年12月8日からは上から2つ目の2.5段階に格上げするなど各種規制を強化した。その効果もあり、12月20日～26日のクリスマスを挟んだ週には全国で一日あたり平均1,000人を超えていた新規感染者が、1月17日から23日の週には同410人まで減少した。これにかなり貢献したと思われる対策がカフェでの飲食禁止だ。

新規感染者がもっとも多い時期であった12月24日から1月17日にかけて、カフェでの飲食を終日禁止し、テイクアウトのみに制限。こっそり座る人がいないように店内の椅子を机の上にあげてしまったり、飲食コーナーを仕切りテーブルで囲ってしまう徹底ぶりだ。韓国は成人のコーヒー消費量が年間一人当たり353杯（2018年）というコーヒー消費大国で、カフェは受験勉強をする学生や買い物途中に休憩する人の憩いの場となっていた。特に冬場は日中も氷点下となってしまうため、「カフェで時間をつぶすことができない」＝「外出が困難」ということになり、家にこもる時間が増え、結果的に人と接する機会が減った人がかなり多かったことが推測される。

現在、ソウル等では2.5段階措置が継続されているが、カフェでの飲食禁止は1月18日に「朝5時から夜9時まででは認める」と緩和された。駐在員の間では、「緩和して大丈夫か？」と懸念する声もちらほらと聴かれているため、杞憂に終わることを願うばかりである。

経済

韓国最大の財閥トップを収監

朴槿恵（パク・クネ）前大統領などに86億8000万ウォン（約8億3千万円）の賄賂を贈った罪などで訴えられていたサムスングループ経営トップの李在鎔（イ・ジェヨン）サムスン電子副会長に対し、ソウル高等裁判所は18日、懲役2年6か月の判決を言い渡した。日本の最高裁にあたる大法院からの差し戻し審であり判決が覆る可能性は低いため、同氏は上告期限である25日までに上告せず、実刑判決が確定した。

携帯電話ギャラクシーで有名なサムソン電子の時価総額は昨年11月現在で403兆ウォン（約38兆円）、日本を代表するトヨタ自動車の約23兆円をはるかにしのぐ規模で、グループ全体では時価総額は700超ウォン（約66兆円）に及び、韓国のGDPの約20%を占めると言われている。

李副会長は、今回の容疑で既に1年間収監されているため残りの収監期間は1年半となり、模範囚として認められれば今年中に釈放される可能性もある。執行猶予刑であった差し戻し前の判決を実刑に改めたものの、賄賂の額にしては刑期が短いため、財閥改革を掲げてきた文在寅（ムン・ジェイン）政権の顔を立てる一方で韓国経済への打撃を最小限に抑えるために、司法が絶妙な判断を行ったとの論評も見られる。

韓国駐在員報告

駐在員：小関 克也

経 済

友好都市忠清南道のイチゴの輸出状況

本県と友好締結をしている忠清南道（チュンチョンナムド）の、ある農業共同組合によるイチゴ輸出が好調だ。道によると、道庁所在地である洪城（ホンソン）郡の5つの農家で構成されている洪城アリヒャン営農組合は、昨年4万3千ドルのイチゴを輸出した。これは、同組合の輸出初年の2019年に比べ、輸出額で1.7倍にあたる。輸出先は、国別で見ると、本県産農産物も多く輸出されている香港が一番で1万1千ドル、香港と同じく輸入大国であるシンガポールが9千ドル、インドネシア8千ドル、ベトナム、米国、タイが5千ドルなどとなっている。

ただ、道全体としては、イチゴの輸出額は前年比42.3%も下落し、170万2千ドルとなっており、その中で、洪城アリヒャン営農組合の輸出だけが急増した理由について、忠清南道は、「農家の優秀な技術力をもとに高品種のイチゴ栽培に成功したため」と分析している。同組合では、ビニールハウス30棟で韓国のイチゴの代表的品種である雪香（ソルヒャン）に加え、アリヒャンという品種も年間80～90トン生産している。アリヒャンは、子供のこぶしより大きな果実が特徴で、糖度は一般のイチゴと同等だが、濃厚な甘みと酸味が楽しめる。何よりも果実が堅くて保存期間が長く、輸出に適している。海外では百貨店など高級市場で販売されており、香港の場合一粒50～60gの特大型1箱（1.2kg）が約10万ウォン前後（約1万円前後）で即完売するそうである。

忠清南道にはいちご研究所もあり、いちごは主要農産物の一つである。「克日（日本に追いつき、追い越せの意）農産物の代表」などという政治的な言われ方をされることもあり、品種や栽培技術の日本からの流出が議論になることもあるが、今後も静岡県産いちごとフェアな輸出競争が行われることを期待したい。

経 済

LCC（格安航空会社）の苦境続く

韓国の航空業界筋によると、昨年韓国主要LCC4社（チェジュ航空・ジンエアー・エア釜山・ティーウェイ航空）の営業赤字の合計は約8,500億ウォン（約850億円）に達すると予想される。静岡・ソウル線を運休中のチェジュ航空（業界1位）は3,360億ウォンの営業損失となり、前年比で赤字規模を10倍以上に増やした。ジンエアーとエア釜山はそれぞれ1,847億ウォン、1,970億ウォンで、やはり赤字幅が4～5倍に拡大、ティーウェイ航空も約1,300億ウォンの営業損失が予想されている。

昨年、LCC各社は大韓航空、アジアナ航空と同様、貨物運送に取り組むことで実績の改善を狙った。ジンエアーは旅客機を貨物機に改造し、チェジュ航空やティーウェイ航空は、機内座席に貨物を積み込むなど、運送量の拡大にまい進した。しかし、そもそも貨物事業をこれまできちんと営んでいなかっただけに、効果は微々たるものだった。LCC業界では、既にイースター航空が破綻をしているが、少なくとも来年と予想される旅行の回復時点までLCC各社が持ちこたえることができるか否かが危惧されている。

韓国駐在員報告

駐在員：小関 克也

経 済

KIMES（韓国国際医療機器展）に出展

韓国では新型コロナウイルスへの感染に最大限の注意を払った上で、展示会等のイベントは実施されている。当事務所も3月18日から21日にかけてソウルの展示場COEXで開催されたKIMES（韓国国際医療機器・病院設備展）に出展した。昨年も同時期に開催予定であったが新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延した時期とちょうど重なり直前に中止となったため、事務所としての出展は2年ぶりである。2年前の出展時は県内企業の方に実際に来ていただき、県ブース内で直接商談をしていただいたが、今年は往来できないため、県内の金属加工製造や医療器具取扱企業計4社からサンプルをお預かりし、代行紹介を行った。事前に4社の代表者とLINEでグループを組み、来場者からの質問・商談になるべく速やかに対応できるよう工夫はしたものの、個々のオーダーメイドの商談となると、その場で得られる情報以上に追求する方は少なく、改めて人と直接会って話せるビジネス環境の回復を待ち遠しいと感じた次第である。

次回は2022年3月に予定されている。その頃までにはワクチン接種等により新型コロナの感染状況が下火となり、県内企業の皆様が直接出展できる状況になることを期待したい。

社会・時事

韓国駐在を終えて

4年の韓国駐在を終えて、3月中旬に帰国した。お世話になった全ての皆様にお礼を申し上げるとともに、韓国で感じたことを改めて幾つかご紹介したい。

まず1つ目は仕事の仕方の違いである。韓国では事前の段取りよりも現場での対応力を要求される。イベント等において事前の準備はかなり適当でひやひやすることもあるが、実際始まると現場合わせで何とかこなしてしまうことが多い。その特性が遺憾なく発揮されたのが新型コロナウイルスへの対応だ。濃厚接触者を携帯やカードの利用情報において追跡するシステムや、マスク不足の際に在庫がある薬局を表示するシステム等を速やかに構築してしまった。

2つ目はキャッシュレスがとにかく発達しているということだ。韓国ではカード、電子マネー等の電子決済比率が95%を超えており、財布を持たない人もいる。私もお札は何枚か持っていたが、いつからか小銭は財布に入れなくなってしまったため、日本で小銭を入れた重い財布をまた持たなければいけないかと思うと少し憂鬱だ。

3つ目は公共交通機関がとにかく安いということである。距離当たりの料金が安いことに加えて、バスと地下鉄を乗り換えても距離が通算されて料金計算されることが大きい。乗り換えても追加料金を取られないため、皆利用し、結果的に乗る人が多いという好循環になっている。日本でも利用拡大のために検討してほしいシステムだ。

最後に、日韓関係は現在もなかなか難しい状況が続いているが、日本人だからということで嫌な思いをしたことは一度もなかった。新型コロナが落ち着いたなら是非交流の活発化のために皆様にも韓国を訪問していただきたい。ありがとうございました。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

経 済

唐辛子の国で静岡のワサビ

韓国の辛みといえば唐辛子だが、わさびの消費も伸びている。

4月下旬、韓国国内最大手の大型マートのバイヤーを訪ねたところ、当事務所の仲介で4年前に輸入開始した県内産わさびチューブが、初年度比で売上が6倍に伸びているとの朗報に接した。

ただ、最近は中国産わさびを使用した韓国企業のわさび商品も販売好調。例えば、お刺身などと食べるイメージの強いわさびだが、肉をよく食べる韓国で、パッケージに牛肉とわさびの写真を載せたウムトゥリ社の「肉類n生わさび」という商品も人気だそうだ。それでも、静岡わさびには、味の違いがわかる固定客がついており、「安定した地位を築いたから大丈夫」と、バイヤーから頼もしい言葉を伺えた。

県産の根わさび（生わさび）を輸入する事業者も現れた。LinKo.S International（シン・チホ代表）は、昨年から高級寿司店・日本料理店へ売り込み、その取扱を徐々に拡大している。さらに、本物のわさびの味を韓国の個人家庭に届けようと、オンラインショップ「ワサビカゲ（日本風に言えば「わさび屋」）」をオープン。なんと、静岡の生わさびが韓国にて、オンラインで買える。静岡人として、うれしい限りである。

シン代表は、静岡県との友好交流先である忠清南道の牛肉とのセット販売も行っており、当事務所では、旅行に行けない韓国の方々が参加する無着陸飛行ツアー（訪問先は九州）中のイベント景品としてこの肉わさびセットを提供。併せて静岡県のPRも行った。

「美味しい」は世界の共通語。人の往来ができなくても、「わさび」が頑張っている！

社会・時事

YouTube、Vlog～関心は文字・写真から動画へ

昨年9月にKT 経済経営研究所などが発表した「ソーシャルメディア現況及び展望」によると、昨年1月～3月の韓国のSNS利用率は87%で、UAE（99%）、台湾（88%）に次ぐ第3位。また、人気のSNSは「Naver Band」「Instagram」「Kakao Story」「Facebook」「Naver Café」の順（別の調査結果）であることが分かった。

ただし、これはあくまでも「SNS」を調べた場合。情報通信政策研究院（KISDI）の資料によれば、2018年まで利用者が右肩上がり伸びていたSNSは、2019年から減少に転じている。事務所のスタッフに聞いてみても、「以前はFacebookやInstagramを頻繁に利用していたが、1、2年前からあまり使わなくなった」と資料と合致するコメント。

SNSを見ない人々が向かった先は、YouTube動画であった。楽しい動画を上げるYouTuberは多く、最近では飲食店などのお店もYouTubeチャンネルを運営していて、人気を博している。また、自己の生活や好きなことを動画で表現する「Vlog（ブイログ）」（＝Video Blog（ビデオブログ））が大人気。日常を短い動画で公開する人が増えている。

ただ、日常は仕事と直結。企業は機密漏洩や職場の陰口に頭を悩ませているようだ。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

経 済

高麗人参の産地、忠清南道

唐辛子と同じく、韓国を象徴する農産品に高麗人参がある。韓国では単に「人参」と言えば、高麗人参のことを指す。

この高麗人参の最大の産地が、静岡県の友好交流先の忠清南道である。先月、忠清南道庁の招きで、論山（ノンサン）市にあるノルメ人参営農組合を訪れた。

代表のパク・ボムジンさんは、漢方医だった祖父と高麗人参の専業農家として農業発展に尽くした父の下、高麗人参の畑を遊び場に育った。2013年には政府から韓国初の高麗人参職人を意味する「高麗人参マイスター」の称号を受けた方だ。ノルメ人参は、日本の養命酒へも高麗人参を提供している会社で、パク代表も日本のJGAP指導員の資格を持ち、流ちょうな日本語を話すなど、日本の事情もよく理解している方だった。

お店に伺うと、そこには様々な高麗人参の加工品が並ぶだけでなく、高麗人参を使った天ぷらなどの料理も試食用に用意して頂いており、実際に食べてみながら、本県企業との連携や県産品の活用などを前提とした高麗人参の輸出について意見を交わした。

試食して実感したのは、韓国人と私の味覚の違いだ。道庁職員や事務所スタッフが美味しいと感じた黒にんにくと黒人参のペーストは、私の舌には響かなかったが、済州島産の酸味のあるみかんと人参のジュースは、素直に美味しいと思えるものだった。こういった味覚の違い、習慣の違いをパク代表もよく承知しており、日本の加工食品工場などと協力して新商品を開発したいと話していた。

想像以上に美味しく、体に良い高麗人参。両県道の産品交流の可能性を感じた。

社会・時事

飲食店への入店記録は、QRコード？手書き？それとも、電話一本？

韓国では、昨年5月にクラブで集団感染が起きたことを受け、翌月には早くも遊興施設を対象に「QRコードを活用した電子出入名簿」の作成が義務化された。

店舗に置かれたディスプレイに自身の個人情報を記録したQRコードをかざすと、入店記録とQRコード情報のみを社会保障情報院が保持。これらの情報は、何もないと4週間後に自動的に削除される。コロナ患者が発生した時だけ活用される仕組みだ。

現在、この入店時のQR認証が一般店で店内飲食をする場合にも義務化されている。スマートフォンを使い、QRで一瞬にして入店情報を記録でき、安心して食事を楽しめる。

QR個人認証に問題がある人（外国人登録未完了者、機器が苦手な高齢者等）のためには、携帯電話の番号と住所地（市・区名）のみを記載する紙の名簿も備えている。

最近では、店側の情報管理負担を減らし、手書きが面倒な方に対応するため、「080」で始まる店固有番号にかければ登録完了という「コールチェックイン」が普及し始めている。受信側が電話料金を負担する仕組みで、3月末現在で100以上の自治体が参加。

ただ、店舗数、入店者数が多いソウル中心部では、まだまだQRか手書きの二択が主流。先月やっと外国人登録が完了した私は、手書きから解放されたので、まず、よしとしたい。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

社会・時事

展示会見聞録

6月中旬から7月初めにかけて、旅行や物産関係の展示会が集中的に開催されたので、休暇も使いながら視察を行った。この中から2つの展示会を紹介する。

まずは、ソウル国際観光博覧会（SITF）である。以前は韓国国際観光展（KOTFA）と呼ばれていた大規模な観光展だが、今年はコロナ禍の状況ゆえ、旅行会社が休職・出勤日削減などの対応中である現状から規模が小さく、今回、本県としては単独出展を見送った。自治体国際化協会（CLAIR）ソウル事務所の協力を得て、CLAIRのブースにて生わさびの食品サンプル模型を展示、韓国で今購入できる「わさび」を切り口に、静岡県観光紹介を行った。やはりサンプル模型はブース来場者の目を最も引いたようで、静岡に関心を示した方は多かった。ただ、展示会全体としては、昨秋の開催時よりは来場者が増えたものの、やはりまだ一般来場者も業界関係者も少ない。海外勢も、台湾ブース、ASEANブースなどは比較的大きかったが、海外のブース自体が少ない印象だった。観光展への出展はもう少し時期を待ちつつ、観光展という場に固執せずにPRできる場を検討したい。

いくつか視察した展示会の中で、最も来客数が多かった展示会が、ソウル国際酒類博覧会だ。会場入口には長蛇の列、中に入れば、コロナ禍とは思えないほどの活気に驚いた。ワインや日本酒、ウィスキー、クラフトビールや韓国伝統酒、ベーコンやチーズなどの食品からワイングラスまで、お酒にまつわる様々なものが販売されていた。一般来場者は有料（約2,000円）の入場券を購入し、入口で試飲用のグラスを購入（安いもので約300円）。ブースに行くと試飲用のお酒をいただくのだが、コロナ禍のため、用意された複数の試飲スペースまで移動し、QRコードで試飲場の入場チェックインを毎回した後、ブースの壁に向かって飲むという仕組みが面倒であった。それでも試飲自体が楽しみの博覧会でもあるため、試飲場には当然、列ができる。県産品を販売していた出展者に聞いてみると、「韓国人はお酒が好きだから、この展示会は特別」と言う。コロナによる家飲みブームで、美味しいお酒を吟味し購入したい人々が集まったようだ。

経済

落ち着いてきた不買運動

2019年に展開された日本製品の不買運動であるが、現在は少し落ち着いてきた感がある。大型スーパーなどへ行っても、一時は全く棚から排除したり、あっても上段の目立たない場所に置かれていたアサヒビールやエビスビールなどの日本産ビールも普通に手に取りやすい位置に下がってきている。日本風居酒屋など以外では、飲食店ではまだあまり日本のビールを普通に注文できる環境には戻っていないが、ユニクロの店舗でも普通に買い物をする韓国人の姿を見かける。産業通商資源部・関税庁・貿易協会によると、今年1～5月に韓国が日本から輸入した品目の総額は217億ドルで、前年同期比17.8%増加だという。レクサス、トヨタ、ホンダなどの新車販売や、化粧品、ゴルフ用品、衣類などの消費財の輸入も増えているようだ。早急に正常化することを期待したい。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

社会・時事

変異ウイルス「デルタ株」で一変

海外旅行、8人まで可能な友人や同僚との会食…これらは6月下旬までは、7月から可能だと目されていた事柄である。デルタ株の急拡大は、韓国社会にもさらなる制限をもたらしている。

6月22日に当事務所が配信した「地域外交チャンネル」(オンラインセミナー)では、政府間のトラベルバブル協約が間近となったグアムやサイパンなど、海外旅行再開の動きが韓国で活発になっている様子をお伝えした。「早い人は7月から、一部9月末の秋夕(チュソク)連休で活発になり、全体的には11月、12月、あるいは年末年始から海外旅行が活発に動くだろう」との見込みもお話したところだった。

これとともに、韓国の新型コロナウイルスの感染やワクチン接種の状況も紹介し、配信2日前に発表されたホットな情報として、7月1日から緩和される政府の新規制基準も表にして御覧いただいた。当時の感染状況なら、首都圏で4人に制限されていた私的な集いは8人まで許容され、地方ならば、人数制限がなくなる見込みであった。

しかし、「韓国の観光・旅行の今」としてお伝えしたこのセミナーの1週間後の6月末、急きょ7月からの基準緩和に「待った」がかかり、結局、新規制基準は採用されたものの、7月末現在、首都圏は最も厳しい「4段階」、首都圏から感染が広がってしまった地方も「3段階」になってしまった。これにより、会食を含む私的な集いは4人(首都圏は18時以降2人)までとなってしまったため、飲食店は大きな打撃を受け、また海外旅行も新規予約はほとんどストップ。先月、国際酒類博覧会など一部展示会の賑わいも紹介したが、7月末の大規模な食品展は閑古鳥が鳴いていた。夜明けはまだらしい。

経済

卵の価格が急騰

韓国ではインターネットの通販を利用した買い物が一般化しており、例えば最大手の「クーパン」ならば、夜の12時前までに発注すれば、翌朝7時前には玄関の前に生鮮品などが配達完了している。一人暮らしをしている私にとっては非常に便利であり、よく利用するのだが、「韓国の卵は高い」と以前から感じていた。日本では10玉100円前後で買えるが、韓国では300円から、高いと600円くらいする。

7月の「消費者物価動向」を調べてみると、卵は1年前と比べて57%値上がりしており、2017年7月以降、4年ぶりの最高上げ幅を記録したそうだが、卵価格の急騰は、高病原性鳥インフルエンザ(AI)による大量殺処分が一つの理由のようだが、産卵鶏が回復した後も価格が高止まりしているのは、どうやらコロナ禍でのステイホームが原因らしい。家庭で食事をするようになり、一般的な食材の代表格である卵の消費が6.7%も増加した。政府は上半期だけで米国などから2億個以上も卵を輸入したそうだが、1日約4,200万個流通する韓国では焼け石に水である。業界関係者からは、「消費者、農家、流通業者の誰も得をしない政策」と批判されている。何なら日本から輸入してほしいものだ。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

社会・時事

韓国におけるワクチン予約方法

韓国の新型コロナウイルスのワクチン接種については、ワクチンの輸入数量が予定より減った、遅れたというニュースは出るものの、その都度、政府間交渉で欧州方面から補完しており、およそ政府の計画通りに進行している。

韓国では、医療従事者、救急隊等のほか、軍人、警察、消防等の社会基盤施設の従事者や、教師や保育士など、職種により通常より先にワクチン接種をする分野があるほか、基本的には年齢区分により順番を決めている。8月9日からは、最後の年齢層である「18歳～49歳」の予約が開始された。（例外的に受験を控える高校3年生だけは、早めの接種を終えている。）

～誕生日予約制～

18～49歳の場合、誕生日の下一桁の数字ごとに予約日が設定される。例えば1月29日が誕生日の人は、8月9日から疾病管理庁のシステムで予約が可能で、システム予約が困難な人は、保健所への電話や訪問により予約できる。ただし9日に予約できない場合、翌日以降は、次の誕生日の人が予約対象者になることから、次の機会は19日ということになる。

予約システムを支えているのは、住民登録番号（または外国人登録番号）と個人の携帯電話番号の紐づけだと言える。さらに、NaverやKakaoなどのポータルサイトやアプリを通じた個人認証もなされている。

私のような外国人も基本的には同じ手続きで予約をすることになり、入国後90日を経過した者から予防接種対象となる。私は当初9月下旬に予約が取れた。その後、政府から「9月の連休前に第1回目を終わらせる」と新たな方針が打ち出されたが、すぐに予約変更の丁寧な案内がスマートフォンのメッセージで到着し、同月上旬に無事、変更できた。韓国では「うちの自治体は遅い」「不公平だ」といった声は聞こえてこない。

～残余ワクチンの予約～

もう一つ優れた予約方法がある。5月末から始まったNaverやKakaoなどの民間ポータルサイトやアプリを活用した「残余ワクチン」の予約である。マップ上で残余状況を誰でも確認でき、指定の時間までに該当の診療所等に行ければ誰でも予約可能だ。家や職場に近い診療所を登録しておき、残余が出たら通知が来るように設定もできる。当初はワクチンの余りは無かったが、今は余りが出始めている。日本では公平な通知が難しいので、残余が出たら自治体職員に割り当てたという話も聞いた。余らせるより良いが、韓国だったら国民が許さなそう。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

経 済

輸入食品の海外製造現場をオンラインで調査

韓国では8月17日に「輸入食品安全管理特別法」が改正され、「海外製造業所非対面調査」、つまりオンラインで海外の製造施設を調査できるよう法的根拠を整えた。さらに、9月14日、食品医薬品安全処が「非対面調査運営マニュアル」を刊行したという情報を掴んだ。

天変地異や感染症など現地調査が困難なケースにおいて、非対面での安全管理システムを作る必要性が台頭したとし、非対面調査を体系的・効率的に行うため、行政機関などが必要な業務処理手続きや基準を定めることを目的としている。マニュアルは30ページに渡り、用語の定義、手続きフローのほか、使用する機器の例なども掲載している。

調査は提出書類などによる書類調査と、情報通信技術を活用した映像調査、つまりオンラインでの調査を併せて遂行することとなる。もともと立入検査自体が、抜き打ちで行う仕組みだが、さらにオンラインとなると、製造業所としては情報管理、企業秘密などの部分で不安も出るだろう。

肝心の映像調査は、リアルタイムで製造現場の衛生管理などを点検するため、画像会議のプラットフォーム、ウェアラブル技術（スマートグラスなど）等の双方向で意思疎通が可能な方法で実施され、ハッキング予防のため、終端間（E2E、エンドツーエンド）の暗号化技術支援プラットフォームを使用する予定だ。無断撮影の禁止、休憩時の映像会議システム及びカメラ・マイクの電源OFFも規定されており、通信エラー区域などについては録画映像での検査も可とし、国ごとの通信事情は考慮する等の幅も持たせている。撮影された写真や録画映像はセキュリティが確立されている「輸入食品統合システム」に登録管理され、5年間保存される。特定の権限を有するID所持者だけが閲覧でき、ハッキングなども周期的にモニタリング管理されるようだ。

情報技術とその活用が進む韓国。日本国内の事業者もこれに対応していくしかない。

社会・時事

秋夕連休の海外旅行はどうなった？

9月18日から22日の土日を含めた「秋夕（チュソク：旧盆）5連休」を活用した海外旅行は結果的には、好調だったようだ。世界的なデルタ株のまん延もあり、1か月前の段階ではチャーター便のキャンセルが相次ぎ、旅行業界からは失望の声が聞こえていたが、蓋を開けてみると「行く人は行く」という様相。サイパンやグアムなどのトラベルバブル締結先を中心に、海外旅行が久々に賑わった。サイパン便は7月下旬からの2か月間で48便運航、約1,500人が利用しており、秋夕中のアジアナ航空サイパン便（180席）の搭乗率は85%に及んだ。他にもヘチョ旅行の「フランス、スイス12日間トレッキングツアー」が9月16日に、キョウォンKRTの「スペイン9日間」も同17日に出発。国民の7割以上がワクチン接種を完了する10月末以降は、さらにヨーロッパ旅行の需要回復が早まると期待されている。

旅行会社の日本担当の中には、訪日旅行の再開が見通せないため、他国の担当に回されたという人もいる。業界関係者は訪日旅行の再開を、首を長くして待っている。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

社会・時事

ウィズコロナへの動きと、減らない新規感染者

11月1日から韓国は「ウィズコロナ」への段階的移行に入ったが、日本とは異なり、まだ新規感染者が減る兆しはない。

10月29日、韓国政府は「段階的な日常回復履行計画」を発表した。ワクチンの接種完了率、病床稼働率、重症患者数、死亡者数、感染者数等を総合的に評価して、11月以降、3段階で緩和を推進するというものだ。市民経済への影響や防疫危険度を考慮し、生活関連施設、大規模イベント、私的な集まりの人数制限解除の順で緩和する。

これにより、11月1日からは、防疫危険度の高い施設として分類される食堂やカフェなどで営業時間制限が撤廃された。店舗運営者や従業員にとってありがたいことだろう。一方、カラオケや屋内体育施設等は24時までの営業だが、接種証明・陰性確認制を導入することとなっており、これに対しては「未接種者への差別だ」との声もあがり、ヨガやピラティスなどジム施設運営者などのデモが起きている。

このように、市中での規制が大きく解除の方向に向かっているが、感染者数は減らない。11月18日0時基準の韓国の新規感染者は3,292人であり、とうとう過去最多を更新した。一方でワクチン接種完了者の割合は同日で75%を超えており、接種計画は順調に進んでいる。

韓国では、日本のような感染者の急増、急減は起きていないが、接種率の上昇による減少はあまり見られない。10月末のハロウィンでも街は賑わっていた。今後、重症者などが増えるようならば、ウィズコロナ計画も少し修正が入るかもしれない。

社会・時事

静岡わさびが“躍進”

10月末より、ソウルの現代百貨店新村（シンチョン）店において、静岡県産の生わさびが一般の生鮮食品の売り場にて販売されている。セリやネギなどが並ぶエリアに交じって、1本約3,000円の「静岡生わさび」が売られているのは、静岡県人として大変うれしい反面、販売の様子が気になるところだが、取扱業者によると予想より売れているらしい。「今後は本店など旗艦店での販売につなげていきたい」という。他にも新しいわさび商品の輸入手続きを進めていて、今月には新商品がお目見えそうだ。

今回、新商品の輸入にあたり、食薬庁のウェブサイトを検索してみたところ、当事務所が承知していた業者以外にも、2～3社が静岡の生わさび（根茎わさび）を輸入していることがわかった。静岡、御殿場、伊豆の生わさびが韓国国内に流通しているようだ。当事務所では今月開催される「COEX FOOD WEEK 2021」に静岡県ブースを設けて出展する準備をしており、日本商品を取り扱う業者に事前に展示会の声掛けを行ったところ、早速「わさび関連の商品に関心がある」というメールが返ってきた。

同展示会ではわさび以外の商品も多数紹介する予定であり、来月は展示会の様子も伝えたいと思う。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

経 済

「トラベルショー」で見た静岡旅への関心

11月18日から21日の4日間、京畿道高陽市にあるKINTEXで開催された「トラベルショー」に初出展した。このイベントは、韓国国内最大級の来場者が訪れる物販展示会「メガショー」との同時開催という特徴があった。開催時期、ターゲット（好奇心旺盛で消費欲の高い首都圏住民）及び物販併催によるPR効果の高さを考慮し、今回の出展を決めた。日本から本県のほか北海道・北東北3県、山形県・宮城県、茨城県、鳥取県、宮崎県が参加し、計6ブースで日本エリアを形成した。周辺のブースは韓国の自治体ばかりで、日本以外の国からの出展はなかったことから、通常の観光展よりも日本への関心が高くなった。

6ブース中、唯一本県だけは通路をはさんだブースでの物販も組み合わせて実施した。物販ブースでは、静岡県産生わさびの輸入業者と協力し、韓国でブランドイメージが定着しつつある「静岡わさび」を販売した。観光ブースでも、本県の観光情報とともに、「静岡の味」として、今ここで「静岡わさび」を購入できることを積極的に紹介し、両ブース一体となって、今は行けない静岡への旅情を掻き立て、観光・物販の両面で静岡をPRした。

今月12月はコロナ患者が急増しているが、11月はいわば「ウィズコロナ月間」だったため、イベント全体の来場者は4日間で85,000人で、本県ブースも活況を呈した。静岡グッズ進呈SNS登録イベントや、ふじっぴーをデザインしたルーレットには長蛇の列ができた。4日間に渡り、多くの「日本に行きたい、静岡に行きたい」という声に接した。

「ふもとっばらでキャンプをしたい」「静岡空港から浜松に行く予定だったがコロナで行けなくなった」「フェリーに乗って土肥に行き、伊豆の東と西に1泊ずつした」など具体的な声を聞くと、思った以上に静岡に詳しい人が多いことがよくわかった。長年ブログで様々な情報を発信し続けている蓄積のおかげかもしれない。わさびの売上も上々で、1本3,000円前後の生わさびを何本も買っていく人が多かった。

食と観光はもともと相性が良い。お客様の顔を見て、年に1度はこのように直接多くの方たちと触れ合う場が必要だと改めて実感した。

経 済

使い捨てカップがないスターバックス〜ソウルで試験運用開始

韓国人はコーヒーが大好きで、街の至る所にコーヒーショップがある。昼食後、コーヒーショップで会話をする人も多い。私も事務所入居ビル1階のスターバックスをよく訪れる。11月6日の朝、いつもの通り同店を訪れたところ、長蛇の列ができていた。この日初めて新システムが導入されたからだった。

スターバックスコーヒー코리아はこの日、ソウルの鍾路区や中区などの12店舗で、使い捨てのカップを使わない店舗運営を試験的に開始した。ソウルに先立ち、観光地の済州島で試験運用され、3か月で約20万個の使い捨てカップ削減に成功している。

私はリユーザブルカップの保証金1,000ウォン（約98円）を支払い、それにコーヒーを入れてもらった。カップは後で自ら洗浄し、無人カップ回収機に載せ返却すると1,000ウォンが戻った。開始1か月が経過したが慣れれば問題ない。